

安房高等女学校木造校舎を愛する会

会報 創刊号

(旧安房南高校第一校舎)

2018. 3. 12



【会員募集中】 年会費 1,000 円
ゆうちょ銀行 振替払込 00270-4-87431
名義：安房高等女学校木造校舎を愛する会

事務局：NPO法人安房文化遺産フォーラム
〒294-0036 千葉県館山市館山 1016
TEL&FAX：0470-22-8271 Eメール awabunka@awa.or.jp

会長あいさつ

佐野 ふさ子

幼い頃、田園風景の向こうに見えるお城のような学校に憧れたものでした。念願叶って入学できたときには天にも昇るようなうれしさでした。どきどきしながら、制服に身を包み、校舎に足を踏み入れた日のことを忘れられません。私がつとも感動したのは、階段のやさしさです。昇り降りしやすい高さで、衝撃の少ない柔らかさには、設計者の配慮に愛情を感じ、この思いは今なお変わることがありません。

由緒ある母校が統廃合となり、とてもさみしい思いをしております。ところ、美しい歴史建造物を地域の誇りとして後世に継承したいと願う皆さんと出会うことができました。

昨年は、千葉県教育委員会と安房高校の許可を得て、草刈りや掃除をし、卒業生や旧職員のみならず、他校の卒業生や遠方から駆けつけた方々などが、暑い夏の早朝から活動に加わって下さいました。校舎や庭が息を吹き返す様子に気持ち弾み、ぬか袋で廊下を磨いた少女時代を思い出しました。これからも、安房地域にのこる文化遺産の保存・活用に協力するとともに、忘れられつつある歴史をひもといて調査・記録し、その価値を多くの方々と分かち合っていきたいと願っています。ぜひ、皆さんのお力を貸して下さい。ただけなら幸いに存じます。

(第7回卒業生・元同窓芳誼会会長)

愛する会 設立

1980年代、木造校舎は次々と壊され、建て直されていった。そんな時代の流れに逆行し、千葉県立安房南高校の中村浩校長は、木造校舎を活用しながら残すことを英断した。1995年、正面玄関を含む第一校舎が県指定有形文化財となった。中村校長の先見の明は表敬に値するものであった。

2008年、同校は創立百年の歴史を閉じ、安房高校との統合により幕を下ろした。ほとんど活用されていないが、人間でいえば、今年米寿を迎える。全国的にみても貴重な文化財である。

閉校後、校舎の利活用を考えるシンポジウムや美術展などを市民有志が開催してきた。10年目を迎えた昨年より、同校元教員の愛沢伸雄氏や水上順義氏、文化財建造物修復の榮山慶二氏らの呼びかけで、卒業生や市民らが話し合いを重ね、環境整備を行った。

10月1日、「安房高等女学校木造校舎を愛する会」が発足した。会の名称は、旧安房南高校でなく、あえて「安房高等女学校木造校舎を愛する会」とした。命名者は精神科医の渡辺克雄氏。「文化財の木造校舎は、高等女学校の女学生が通ったレトロなイメージ。現代社会で心が疲れた人たちも、この校舎に集えば本来の自分らしい生き方を取り戻せると思う」と語る。

第3回卒業生で人形劇団「貝の火」主宰の伊東万里子氏は、「木造校舎は文化財建物というだけでなく、魂をも

ち人格をもつ存在だといえる。だから人を育てる場として使い続けて、これからも校舎を育てていきたい。人形劇や芸術の情操教育をやりたい」と語る。内閣府の地域活性化伝道師でもあるまちづくりコンサルタントの浅尾均氏は、「こんなに素晴らしい木造校舎を空き校舎にしておくのはもったいないし、建物も傷むばかりだ。文化や芸術や歴史など、人びとが得意分野を活かし、国内外の人びとが集い学び合える場などとして活かされれば、さらに校舎は輝くだろう」と語る。

安房高等女学校の卒業生に限らず、美しい木造校舎を愛する者があ寄り、会員はすでに170名を超えた。

見学会

毎秋、千葉県教育委員会と安房高校の主催で見学会が開かれている。当会では、夏より草刈りや掃除を数回行い、当日のお手伝いなどを協力した。

当会の事務局を担うNPO法人安房文化遺産フォーラムでは、戦争遺跡の赤山地下壕跡や、青木繁「海の幸」記念館・小谷家住宅など「館山まるごと博物館」めぐりの一環として、同校木造校舎のガイドを行っている。

11月10日には館山総合高校1年生130名が「観光の学び」で見学し、伝統的な「ぬか雑巾」も体験した。2月5日には我孫子市教育委員会から市民ガイド24名、3月7日には館山市那古地区公民館より22名が来訪し見学ツアーを行った。

旧安房南高校舎の保存活用へ

元教員や卒業生らで「愛する会」発足

日本古来の木造建築と西洋建築を融合させたつくりが特徴で、県文化財にも指定されている館山市の旧安房南高校の木造校舎(第一校舎)を保存活用する市民グループ「安房高等女学校木造校舎を愛する会」が、昨秋に発足した。賛同する会員はすでに100人を超え、年間を通じた建物の維持活動のほか、忘れられつつある歴史をひもといて調査・記録し、その価値を多くのの人たちと分かち合っていきたい」としている。

女子教育としては県内のよつな外観で、ひし形を重ねたレリーフや窓飾り、玄関の装飾、階段の欄干装飾など、美しくきめ細やかな設計配慮を至るところに見ることができ、現在は安房高校の管理下にあるものの、恒常的には使用されていない。これを憂慮した市民有志により、2011年には木造校舎を見つめ直す見学会が開かれた。

旧第一校舎は、関東大震災から7年後の1930年に耐震構造の新しい建築様式で建てられた。中央の玄関から左右対称に大きく羽を広げた白鳥のデザインが特徴的だ。この見学会は、安房高校の管理下にあるものの、恒常的には使用されていない。これを憂慮した市民有志により、2011年には木造校舎を見つめ直す見学会が開かれた。



房日新聞 2018.1.5付

はななく、永続的な有効活用を考へる市民の会を設立できたのだろうか。そう考えた同校元教員の愛沢伸雄氏と水上順義氏、そして文化財建造物修復の専門家である築山慶二氏が発起人となり、同校卒業生や旧職員を中心に呼び掛け、昨年夏から有志による話し合いが持たれた。

その後、地域内外の男女約30人が参加し、夏の早朝から草刈りや掃除が5回にわたって行われた。10月の見学会では、資料室の解説や伝統的な「ぬか雑巾」の床磨き体験などを担当し、来訪者のおもてなしにも協力した。

この活動を経て会は発足。旧安房南高校の同窓会や芳談会にも呼び掛け、歴代役員らが顧問となり、会長は第7回卒業の佐野ふさ子氏が就任した。事務局局長は愛沢氏がなり、代表を務めるNPO法人安房文化遺産フォーラムが事務局を担うことになった。会の名称は、旧安房南高校でなく、あえて「安房高等女学校木造校舎を愛する会」とした。

築山氏は、那古寺の修復にも携わり、数多い館山市内の国登録文化財の調査にも関わっている。県当局と会の窓口を務めるながら、木造校舎の雨漏りなどの修理指導にあたり、人が出入りしなげれば荒廃してしまふ。気になるところだ。同校の美術教師であった水上順義氏、木造校舎はまじの景観として素晴らしいばかりでなく、校舎内に埋もれている資料にも価値がある。戦跡などの文化遺産を保存・活用し館



山まると博物館」のまちづくり構想を進めてきた愛沢事務局局長は、「地域史を知る上で安房高女の歴史は重要。例えば戦争末期、校舎は野戦病院に位置付けられ、油縄のひめゆり学徒隊のように、女学生が館山病院で看護実習の指導を受けていた」という。卒業生の証言とともに調査研究を深め、地域教育の伝統や文化を学ぶことを通じて、木造校舎をまじりに生かしていきたい」と語る。校舎を管理する県教育委員会文化財課は、「(こうした動きは)ありがたい事です。今後どういう形で永続的に保存活用するのか、一緒に話し合っていきたい」としている。

愛する会の会員は現在110人を超える。年会費1000円で賛同者を募り、年間を通して引き継ぎ建物の維持活動のほか、文化財としての調査・記録、その価値を広く市民に知らせるための企画展などの催事や会報発行などを行っていく予定だ。

会では、会員を募っている。年会費は1000円(ゆうちよ銀行振替口座002704-87431安房高等女学校木造校舎を愛する会)まで。問い合わせは、事務局(0470-2218271)へ。

【こんにちは。役員紹介です】

- * 会長 佐野ふさ子
- * 事務局長 愛沢伸雄
- * 運営委員 浅尾均、和泉純子、小谷美紀、加藤喜久夫、金子麻美、川戸美音子、河辺智美、関和美、松井啓悟、渡辺克雄
- * 監査 佐野妙子、水上順義
- * 顧問 築山慶二、高橋澄子、半澤糸子、本間トシエ、渡邊澄子
- * 副会長 幸田右子、杉田敏子
- * 事務局次長 池田恵美子





旧安房南高校の木造校舎を見学する生徒ら＝館山

旧安房南高校の木造校舎を見学する生徒ら＝館山
 科・海洋科は同校水産校舎で、長崎の平和記念像作者の北村西望が制作し、戦時下に金属供出で破壊され、戦後再建された初代校長の銅像を見学し手づくりの紙芝居「八犬伝」を観賞した。

生徒たちのアンケート結果では、各見学地もガイドとの交流も概ね高い評価。感想としては、「地元で素晴らしいものが多くことに驚いた」「もっと多くの人に知らせたい」「木造校舎はかわいい、こういう学校に通いたかった」という声が多かった。特に、南高校の母親が安房南高の卒業生で伝統的な家庭では、会話が弾んだという。引率教員から体験をも、「地域のことを知らなかった。生徒と一緒に学べて良かった」という感想があった。

観光協会常任理事で、同校の開かれた学校づくり委員でもあるNPOの愛沢代表は、「まちつ

くりは人づくり。地域を学ぶことは誇りを育てることにつながる。約40人の市民ガイドとの触れ合いも、心温まる体験になったのではないかと元就職し、まちづくりに関心をもって生きていくきっかけになれば幸いです」と話していた。



魅力ある県立学校づくりに一環として、館山総合高校はこのほど、NPO法人安房文化遺産フォーラム（愛沢伸雄代表）との協働で「観光の学び」の校外学習を行った。1年生138人が、3年目となる取り組みを煮出してトコロテンをつくる

漁村の食文化体験や、安房南高校の母親が安房南高の卒業生で伝統的な家庭では、会話が弾んだという。引率教員から体験をも、「地域のことを知らなかった。生徒と一緒に学べて良かった」という感想があった。

観光協会常任理事で、同校の開かれた学校づくり委員でもあるNPOの愛沢代表は、「まちつ

館山総合高校 1年生138人 名所など見学して感動

「観光の学び」の校外学習

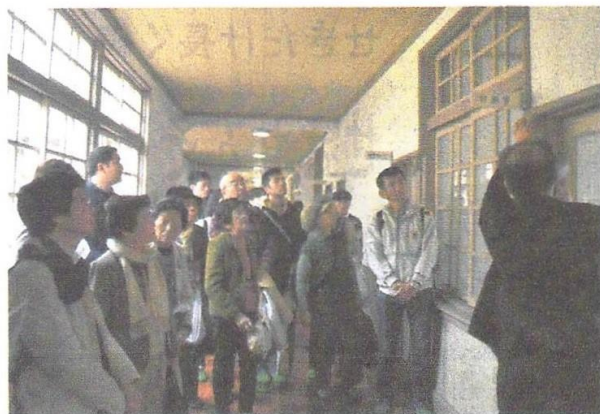


館山

科・海洋科は同校水産校舎で、長崎の平和記念像作者の北村西望が制作し、戦時下に金属供出で破壊され、戦後再建された初代校長の銅像を見学し手づくりの紙芝居「八犬伝」を観賞した。

生徒たちのアンケート結果では、各見学地もガイドとの交流も概ね高い評価。感想としては、「地元で素晴らしいものが多くことに驚いた」「もっと多くの人に知らせたい」「木造校舎はかわいい、こういう学校に通いたかった」という声が多かった。特に、南高校の母親が安房南高の卒業生で伝統的な家庭では、会話が弾んだという。引率教員から体験をも、「地域のことを知らなかった。生徒と一緒に学べて良かった」という感想があった。

観光協会常任理事で、同校の開かれた学校づくり委員でもあるNPOの愛沢代表は、「まちつ



校舎のガイドを受ける参加者ら＝館山

山形市北条が28日、一般公開された。多くの卒業生らが訪れ、県教委文化財課職員の説明を聞きながら校内を巡り、学生時代を懐かしんだ。

木造の階建ての同校舎は、関東大震災後の昭和5年に竣工。日本古来の木造建築と新たに伝わった西洋建築を融合させたつくりが特徴。当時の最新技術で建てられ耐震性にも優れている。

平成7年に県指定有形文化財に。現在校舎は、今年のノーベル文学賞受賞者、カズオ・イシグロ氏の長編小説をアレドラム化した「わたしを離

れないで」など、映画やドラマのロケなどで活用されている。

一般公開は、郷土の文化財の理解を深めるとともに、文化財を活用したイベントとして県教委と安房高が毎年実施。校舎を地域の誇りとして継承しようとして今年10月に発足した「安房高等女学校木造校舎を愛する会」（佐野ふさ子会長）が、公開に向けて除草や掃除などの整備で協力した。

この日は、同課職員によるガイドツアーを2回実施。左右対称につくられた外観、玄関扉上のダイヤ形のレリーフ、耐震性のある天井や梁（はすり）などの説明があり、参加者らが熱心に耳を傾けていた。

また、校舎内に開設された古い写真を並べた

房日新聞 2017.10.29

木造建築の伝統美に感銘

旧安房南高 木造校舎 一般公開に多くの市民

館山

山形市北条が28日、一般公開された。多くの卒業生らが訪れ、県教委文化財課職員の説明を聞きながら校内を巡り、学生時代を懐かしんだ。

木造の階建ての同校舎は、関東大震災後の昭和5年に竣工。日本古来の木造建築と新たに伝わった西洋建築を融合させたつくりが特徴。当時の最新技術で建てられ耐震性にも優れている。

平成7年に県指定有形文化財に。現在校舎は、今年のノーベル文学賞受賞者、カズオ・イシグロ氏の長編小説をアレドラム化した「わたしを離れないで」など、映画やドラマのロケなどで活用されている。

一般公開は、郷土の文化財の理解を深めるとともに、文化財を活用したイベントとして県教委と安房高が毎年実施。校舎を地域の誇りとして継承しようとして今年10月に発足した「安房高等女学校木造校舎を愛する会」（佐野ふさ子会長）が、公開に向けて除草や掃除などの整備で協力した。

この日は、同課職員によるガイドツアーを2回実施。左右対称につくられた外観、玄関扉上のダイヤ形のレリーフ、耐震性のある天井や梁（はすり）などの説明があり、参加者らが熱心に耳を傾けていた。

また、校舎内に開設された古い写真を並べた

昭和22年に前身の安房女子高校を卒業し、54年から7年間、安房南高で教諭として勤めた高橋澄子さん（85）＝館山市＝は「学生時代は戦中、戦後、大変だった。登下校や学校生活、クラスメートの顔が思い出されて懐かしい」と、在学当時からの仲間と思い出話に花を咲かせていた。

ギャラリーでは、多くの卒業生が写真を眺め、学生時代に思いをはせた。ぬか雑巾の体験や安房高書道部、写真部、美術部の作品、書道パフォーマンス、吹奏楽部による演奏も行われ、参加者らを楽しませた。

木造校舎の魅力

船田 正廣

かつて安房高等女学校であった時代、周辺の水田に影を映し、清楚に建った姿は、女子教育並びに郷土文化の殿堂に相応しいものだったに違いない。玄関前に立つて見上げると、三角屋根がそそりたつ塔のように見える。大きく羽を広げた白鳥のように伸びやかな両翼の先端部に、直角に交わる軸を持つているのも特徴である。建物の厚みと奥行きを充分暗示させ、人を包み込んで安心感を与えている。

管理棟外壁部の「洗い出し」という技法の装飾や、玄関内部の漆喰技術、天井から壁部の垂直面にかけて湾曲する蛇腹仕上げなど、大変むずかしい技巧だという。天井裏には継ぎ目のない長尺材が使われており、輸入米材の書付があつたという話だ。本校を建てるために、考えられないほどの大木材を、関東大震災直後の大正期から準備していたということであり、教育に寄せる並々ならぬ計画と思わざるを得ない。

玄関扉は、19cm四方の小さな正方形ガラスが36枚ずつはめられている。1枚1枚がみな別々に入れてあり、気の遠くなるような仕事である。玄関内部にある明かり採りの「はめぐろし窓」をはじめ、各所に正方形とダイヤ形の意匠を感じることが出来る。

建物内部は広く長い廊下が、伝統的に磨かれて光り、心地よい。天井も高

くさつぱりしている。階段は勾配が緩やかで、ゆったり配列された欄干の装飾が美しい。支柱の頭頂部を宝形にカットし、その下を厚細材で鉢巻き状に回し擬宝珠を表している。角材は面取りされ丸やかな仕上がりで、歩行する時に触れると優しい感触である。配慮が行き届いた工夫や材料処理がされ、使い込んだ木の輝きと飾り過ぎない装飾がほどよい。住んでいる人間がその家の価値を識ることは、文化の一部である。(同校元美術教師・彫刻家)

懐かしい写真・資料や日記、思い出の投稿など、お待ちしております。



版画作品…松川佐世子
(安房南高校第14回卒業)



映画やドラマの撮影に

旧安房南高校を舞台に、多くの映画やドラマの話題作が撮影されてきた。
 ・1958年…映画『嵐の中を突っ走れ』体育教師役で石原裕次郎主演。
 ・2008年…ドラマ『鹿男あをによし』(フジテレビ)、綾瀬はるか出演。
 ・2014年…映画『ふしぎな岬物語』吉永小百合主演。

・2016年…ドラマ『わたしを離さないで』(TBS)、ノーベル文学賞受賞カズオ・イシグロ原作、綾瀬はるか主演の話題作。

・2017年…ドラマ『トットちゃん!』(テレビ朝日)、黒柳徹子の半生がテーマ。

5月20日(日) 10時より学習調査活動の一環として、映画『嵐の中を突っ走れ』を上映する。(会員限定)

【木造校舎を愛する会】 当面のスケジュール 2018

- * 4月8日(日)
 - 8:30~ 草刈・そうじ
 - 10:00~ 意見交換会
- * 5月20日(日)
 - 8:30~ そうじ・設営
 - 9:30~ 開場
 - 10:00~ 学習会：映画『嵐の中を突っ走れ』
 - 参加費無料(会員限定・スリッパ持参)



お友達にもぜひ入会をお誘いください。

【会員募集中】 年会費 1,000円
 ゆうちょ銀行 振替払込 00270-4-87431
 名義：安房高等女学校木造校舎を愛する会